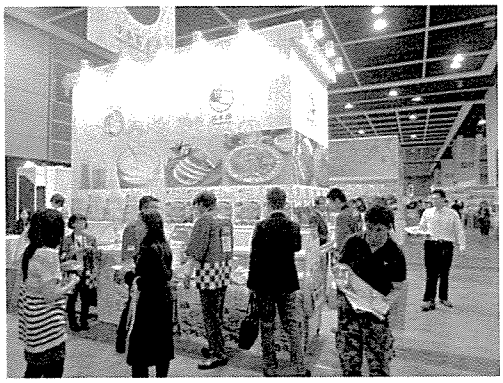
○　香港フードフェスティバルに出展、日本産畜産物ならではの品質・安全性をＰＲ

日本畜産物輸出推進協議会は昨年 12 月 24 日から 28 日の５日間、香港コンベンションセンターで開かれた「香港フードフェスティバル 2015」に出展した。今回、同協議会として初めて牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳・乳製品の各部会が揃って出展。香港では日本産畜産物すべての輸入が解禁されていることもあり、オールジャパン・オール畜産で取り組んだ。展示会には 10 カ国以上・650 社が出展し、一般消費者ら 120 万人以上が来場した。



同協議会では、オール畜産で出展することで、日本畜産物の高品質、安全性、美味しさ、新鮮さをアピール、さらに日本食と融合した調理方法や相乗効果を高め、認知度や購買力の活性化を図った。

会場では、開会のあいさつとして、菱沼毅理事長が日本畜産物の安全性、優秀さと美味しさへのこだわりを紹介した。日本からの参加者は 50 人を超えており、品目ごとに展示説明紹介が行われたほか、「名厨教室」というステージプログラムも開かれ、試食や調理実演、品目ごとの講演が行われた。このうち牛肉では、ミートコンパニオン常務取締役植村光一郎氏とスターゼンインターナショナル江口和夫氏が受け持ち、植村氏は、すき焼きのおもてなしと題して日本食文化の一部としてすき焼きを紹介し、すき焼き用牛肉伝統の華盛りを披露しながら牛肉の香り、脂肪融点の低さ、脂肪酸組成、格付けの厳格さ、血統やトレース方法を説明した。直径 45cm の大皿に咲いたスライス牛肉で花弁を模った大輪の花に大きな会場から拍手喝さいが上がった。

植村氏は、「香港の牛肉需要の旺盛さとともに、各国の供給体制についてナショナルブランド戦略が激しさを増しており、米国、豪州はもちろん、韓国の韓牛が日本産和牛の価格帯を狙って輸出されていることも含めて、日本の和牛統一マークの重要性を強く感じた」と語った。植村氏によると、韓牛はシティー・スーパーで 210 香港ドル/100g（3,150 円）で販売されているという。

○　農政新時代キャラバン、ブロック別説明会を開催―農水省

農水省は１月上旬から、全国９ブロックと各都道府県で「農政新時代キャラバンブロック別説明会及び都道府県別説明会」を開催する。「総合的なＴＰＰ関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野の対策について、地方公共団体及び関係団体、関係者等に説明するため開かれるもの。各説明会では、総論が 10 時から行われ、その後は各会場に分かれ畜産分科会のほか、水田・畑作分科会、園芸分科会が行われる。

ブロック別説明会は、①北海道ブロック、１月 18 日、北海道自治労会館②東北ブロック、１月 12 日、仙台国際センター③関東ブロック、１月８日、さいたま新都心合同庁舎１号館④北陸ブロック、１月 14 日、石川県地場産業振興センター⑤東海ブロック兼愛知県、１月８日、総論・名古屋市公会堂、畜産分科会名古屋企業福祉会館⑥近畿ブロック兼京都府、１月 13 日、総論・京都産業会館、畜産分科会・京都商工会議所⑦中国ブロック兼岡山県、１月 19 日、総論・おかやま未来ホール、畜産分科会・岡山国際交流センター⑧四国ブロック兼香川県、１月 15 日、香川県社会福祉総合センター⑨九州・沖縄ブロック、１月７日、市民会館崇城大学ホール（熊本市）――で行われる。総論と各分科会は別会場で行われるブロックもある。一般傍聴の申込は担当地方農政局などから。